

ミレニアム開発目標 (MDGs) と 持続可能な開発目標 (SDGs)

国際社会が協力して取り組まなければならない開発課題

MDGs： 途上国の貧困削減を目指して

2000年9月、国連ミレニアム・サミットがニューヨークで開催され、21世紀の国際社会の目標となる「ミレニアム宣言」が採択されました。宣言では、平和と安全、開発と貧困、環境、人権、弱者の保護などの課題を挙げ、国連の役割に明確な方向性が提示されています。この宣言と、1990年代に行われた主要な国際会議やサミットで採択された国際開発目標を統合し、開発途上国の貧困削減のための世界共通の枠組みとして「ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)」が作られました。MDGsは2015年末までに達成すべき8つの目標を掲げています。

MDGsの形成以降、多くの国で貧困削減や基本的なニーズの充足において目覚ましい進展が見られましたが、達成度は目標、国・地域によりさまざまで、サブサハラ・アフリカを中心に、紛争国や脆弱国で遅れが目立ちます。目標別では、「貧困人口比率の半減」「初中等教育における男女格差の解消(ジェンダー平等)」「安全な水へのアクセス」は達成の見込みですが、「飢餓人口の半減」「初等教育の完全普及」「妊産婦死亡率の削減」は達成困難と見られています。

MDGs達成に向けたJICAの貢献

グローバル化と相互依存が深まるなか、国を単位とするのではなく、人間一人ひとりの安全・安定に注目する安全保障に主軸を置いた支援がさらに重要になってきています。JICAは人間の安全保障の実現を使命の一つに掲げ、「すべての人々が恩恵を受ける、ダイナミックな開発」を目指して、MDGsの達成にも貢献しています。

● 貧困層支援・格差是正

開発途上国において極度の貧困状態にある人口は2015年で約16億人と予測され、サブサハラ・アフリカと南アジアに集中しているといわれています。特に、貧困層の多くは農村部に住み、生計を農業に依存する世帯が多いことから、農村の振興が重要です。

貧困層に対するインクルーシブ(包摂的)な支援として、JICAは2010年より、ブータンでも特に貧困層の多い東部の6県で、高い標高に合った果物や野菜の栽培方法を研究し、農家を指導してきました。共同出荷による販売を通じて現金収入を得られるようになった農家や、都市部から戻り農家を継ぐ若者が増えるなどの効果が出ています。干ばつ被害の多いエチオピアでは、2012年より天候保険の導入支援を開始しました。降雨量が一定値を下回ると保険加入農家に保険金が支払われる仕組みで、不規則な天候のリスクに対するレジリエンス(強靱性)を高めるのが狙いです。

● 初等教育の完全普及

アジアのなかでも初等教育の目標達成が遅れている国の一つ、バングラデシュでは、JICAは教育の質の改善に取り組んできました。同国政府が策定した第3次初等教育開発計画に対して他の9つの援助機関と協力して財政支援を行う一方、2004年からは初等理科教育強化のための支援を続けており、協力対象校の修了率が全国平均を上回るなど成果が表れています。

● 初中等教育における男女格差の解消

ジェンダー平等の推進の観点では、JICAは教育分野での男女格差の解消に貢献してきました。特に女性の成人識字率が低い南アジアでは、女性を主な対象とした識字教育支援により女性の就学機会を広げることが重要です。JICAは、パキスタンでノンフォーマル教育支援を通じた識字教育行政の改善に協力してきましたが、女子学生の途中退学問題に対応するため、実生活に役立つことが学べるようカリキュラムを作成するなどの工夫をしています。

● 母子保健状況の改善

母子保健は貧困層において改善が遅れています。母子保健関連指標の地域間格差が目立つフィリピンでは、JICAは、2州を対象に母子保健サービスの強化に取り組んだ結果、妊産婦死亡率や医師・助産師の立ち会いによる出産割合が大幅に改善される成果が確認されました。これを他地域にも広げるべく協力を展開しています。こうした支援に加えて、今後JICAは、すべての人々が健

8つのMDGs

ロゴ作成：NPO法人「ほっとけない 世界のまずしさ」



目標1：極度の貧困と飢餓の撲滅



目標3：ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上



目標5：妊産婦の健康の改善



目標7：持続可能な環境の確保



目標2：普遍的初等教育の達成



目標4：乳幼児死亡率の削減



目標6：HIV/エイズ、マラリアおよびその他の疾病の蔓延防止



目標8：開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

MDGsの達成状況

目標/ターゲット	アフリカ		アジア				オセアニア	ラテンアメリカ・カリブ	中央アジア・コーカサス
	北	サブサハラ	東	東南	南	西			
目標1：極度の貧困と飢餓の撲滅									
極度の貧困の半減									
極度の飢餓の半減									
目標2：普遍的初等教育の達成									
初等教育の完全普及									
目標3：ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上									
女兒初等教育就学率									
目標4：乳幼児死亡率の削減									
5歳以下児死亡率2/3									
目標5：妊産婦の健康の改善									
妊産婦死亡率3/4									
目標6：HIV/エイズ、マラリアおよびその他の疾病の蔓延防止									
HIV/AIDS蔓延の防止									
目標7：持続可能な環境の確保									
安全な飲料水のない人口半減									
衛生設備のない人口半減									

■ 2015年までに目標達成可能な目標 ■ 現状のままでは2015年までの達成が困難 ■ 進展なしまたは悪化
出所：国連開発計画 (UNDP) 「The Millennium Development Goals Report 2014」

康増進や予防、治療、リハビリに関する保健サービスを必要となるときに負担可能な費用で受けられることが必要という考えの下、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成を目指していきます。

● 安全な水や衛生へのアクセス向上

安全な水へのアクセス改善は、全世界では2010年に目標を達成しましたが、サブサハラ・アフリカの大半の国は達成が困難とされており、基礎的な衛生施設(トイレ)へのアクセスは最も進捗が遅れている目標の一つです。JICAは、セネガルでも衛生へのアクセス状況の悪い3州を対象に衛生啓発に携わる教員や村落啓発員、トイレ建設工の育成とモデルトイレの建設を支援しました。既に目標を達成したアジアでも、都市部への人口集中に伴い給水サービスの質には課題も残されており、例えばフィリピンのセブ都市圏では正確な給水状況を把握するための遠隔監視制御装置の導入を支援しました。今後は横浜市との連携により装置の運用指導も行う予定です。

持続可能な開発目標 (SDGs) : 世界共通の開発目標

国際社会では、2015年以降の新たな開発目標「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」について議論が進められ、2015年9月の国連サミットで合意したところです。現行MDGsで未達成の

課題については引き続き対応が必要とされ、特に、MDGsから取り残された人々を重視する立場から、国内の格差に配慮するインクルーシブな視点が一層重要になっています。

また、目覚ましい経済成長を遂げた国々の多くがMDGsの達成率も高いことから、経済成長が貧困削減に対して重要な意味を持つことが再認識された一方で、自然災害や食料価格の高騰、金融危機、感染症といったグローバルな課題が、MDGsの順調な達成を阻害する大きなリスクとして顕在化してきました。こうしたダウンサイドリスクへの対応は今後重要な視点であり、リスクへの対処能力としてレジリエンスを築くことが新たな開発枠組みの形成においても重視されます。なかでも、自然災害へのレジリエンスの強化として重要な防災分野の取り組みは、日本の経験と知見を生かした協力として世界から注目されています。

増え続ける世界人口は、食料や資源への需要増を招く一方、その経済活動により排出される温室効果ガスや廃棄物が環境への負荷を強めることが懸念されます。環境の持続可能性はMDGsにも含まれていますが、ますます重要な課題となっています。

SDGsでは、MDGsで未達成の課題への取り組みを進めるとともに、新たな課題に対して、世界各国共通の目標の達成に取り組むことが求められます。JICAは人間の安全保障の実現を掲げ、これまで取り組んできたインクルーシブやレジリエンスの視点を重視した協力を一層進めることで、新しい開発目標の達成に貢献していきます。